

(2019年度) 第8回応用地形判読士資格検定試験 二次試験問題

〔午後の部〕

実技試験の注意事項

- (1) 実技試験の実施日時は、2019年11月30日(土)の10時0分から15時0分までとする。
 - ・ 午前の部：10時0分から12時0分までの2時間。
 - ・ 午後の部：13時0分から15時0分までの2時間。
- (2) 試験開始後1時間は、退場を認めない。
- (3) 試験問題には、国土地理院発行の地形図と空中写真を使用している。地形図は、注記がある場合を除いて、上を北としている。
- (4) 解答は、図示を求める問題に対しては〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕に、記述を求める問題に対しては〔マス目入り答案用紙〕に、それぞれ記入すること。
- ☆ 〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕および〔マス目入り答案用紙〕には、受験番号を必ず記入すること。 受験番号が未記入であったり間違えている答案は、採点からすべて除外し、不合格とする。
- (5) 指定した読図範囲について、問題にしたがい読図すること。実体視できる範囲については、読図に加えて空中写真判読を行うこと。

これらの結果は、その地形図上に図示すること。図示するにあたり、地形種の輪郭は明確に記入すること。ただし、地形種は、地形判読記号、色、模様などにより判別できる程度としてもよい。
- (6) 地形図に記入する地形判読記号、色、模様などは、特に定めない。ただし、使用した地形判読記号などは、別に配布してある〔記号凡例用紙〕に記入すること。
- (7) 試験の開始にあたり、試験問題の欠落や印刷に不鮮明な箇所がないことを確認すること。
- (8) 試験開始後は、参考書籍のほか、通信機器類および電子機器類(ウェアラブル端末(例えばスマートウォッチ)などを含む)の使用は一切禁じる。また、携帯電話など音を発生させる機器類は、必ず電源を切ること。
- (9) この注意事項の説明後は、原則として質問に応じない。
- (10) 試験終了後、この問題用紙は持ち帰ってもよい。

ただし、①地形図、②記号凡例用紙、③マス目入り答案用紙、④空中写真は、机の上に残すこと。

◇ 〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕および〔マス目入り答案用紙〕には、

受験番号を必ず記入すること。

《問 題》

1. 地形図に実線で示した範囲について、地形図読図と空中写真判読によって活構造と地すべり・崩壊地形を抽出し、その結果を地形図上に図示しなさい。
その際、実線で示した範囲で見られる最も規模が大きい地すべり・崩壊地形については、その内部の微小な地形を分類すること。
地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号凡例用紙〕に記入しなさい。

2. 次の a) と b) の質問に、マス目入り答案用紙に合計 800 字を超えないように記述しなさい。

必要に応じ、地形図中の参照する地点や地域に、記号や番号などを付してもよい。

- a) 図示した活構造について、地形判読によって活構造と判断した根拠を述べよ。
次に、地形判読から推定される活構造の性質について、論拠を示して述べよ。
- b) 地形判読に基づき、図示した地すべり・崩壊地形の特徴を述べよ。
次に、この範囲の地すべり・崩壊地形の素因を考慮して、応用地質学的な問題点を記述せよ。

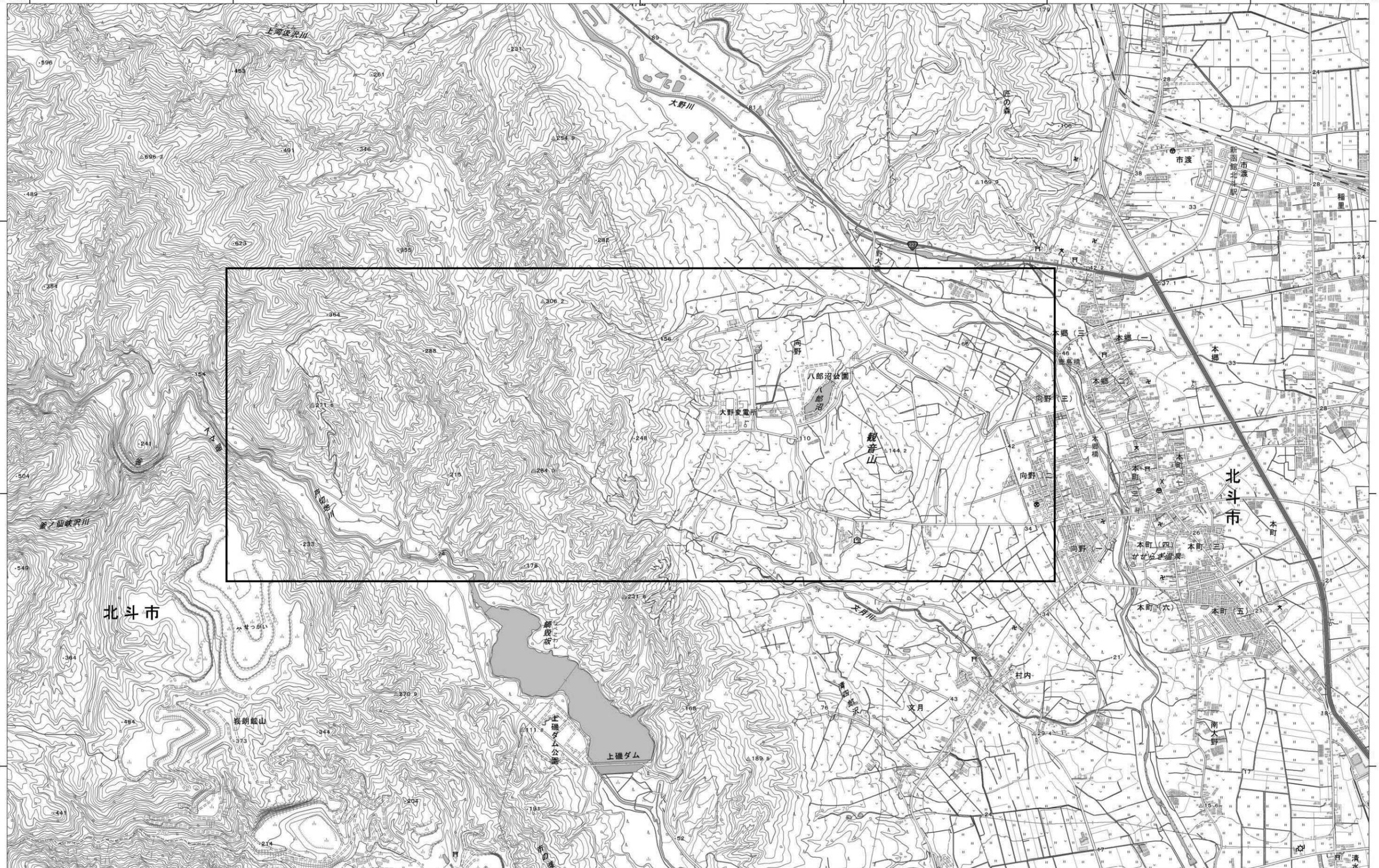
<参考>

地形図 国土地理院「電子地形図 25000」／出題範囲は図示の緯度・経度を参照
(データ取得日：2018年09月03日)
空中写真 整理番号：HO-2005-8X / コース番号：C4 / 写真番号：5, 6, 7



140° 32' 53.34"
41° 54' 47.86"

140° 39' 34.88"
41° 54' 47.87"



140° 32' 53.51"
41° 51' 37.37"

140° 39' 34.72"
41° 51' 37.37"

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第54帯、中央子午線は東経141°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約8° 50'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式
7. 本図上部の枠内には、この地図の購入者が入力したものをそのまま記載しています

令和元年 9月 3日 調製

著作権所有兼発行者 国土地理院

140.60-41.89-A3-y-20190903-093715-0000